

1 検討の前提

- ①新県立中央図書館を東静岡地区に整備する
- ②静岡市と進めてきた「まちづくりの方向性」を尊重する
- ③厳しい財政状況を踏まえ、県の財政負担を軽減する

2 図書館機能の見直し

（1）基本的な考え方

- ・社会情勢の大きな変化を踏まえ、図書館機能を見直し
- ・基本的なコンセプトは踏まえつつ、「経済性」や「機能性」を重視し、サービス水準と費用対効果に優れた施設を目指す

（2）見直しの方向性

ア デジタル技術の活用

- ・県民が、住んでいる場所や時間を問わず、利用できる環境を目指す
- ・利便性が高く、効率的に運営される図書館を実現

イ 市町立図書館との役割分担

- ・県立図書館の役割は「市町立図書館の補完・支援」を基本
- ・市町立図書館の機能と重複しないように見直し
- ・蔵書を相互に利活用する「図書館ネットワーク」を強化

ウ 収藏能力

- ・今後30年間で見込まれる150万冊程度を上限に見直し

エ 蔵書の保管方法

- ・書庫の分散化を含め、最適な手法を選択

オ 新たな交流と価値の創出

- ・東静岡地区全体の機能を最適化する観点から機能を見直し

3 最適な事業手法・東静岡地区のまちづくり

（1）基本的な考え方

- ・静岡市とのまちづくりの一体性を重視
- ・民間活力の最大限の導入を軸として、県の財政負担の軽減を目指す
- ・県有地の一体的な活用（2.43ヘクタール）を基本

（2）事業手法の方向性

- ・最適な施設の配置や整備手法（例えばPPP／PFI、定期借地権方式による公募など）を検討

4 今後のスケジュール

- ・「見直しの方向性」に沿って、具体的な機能や整備手法などを決定
- ・令和10年代中頃～後半の開館を目指す

＜現計画との比較＞

区分	現計画	見直しの方向性
建設地	東静岡駅南口県有地 東側（0.97ha）	県有地全体（2.43ha）で 最適な配置を検討
施設規模	19,800m ²	縮小
整備手法	県直営方式	民間活力の導入を軸として 最適な整備手法を検討 （PPP／PFI、 定期借地による公募など）
事業費	298億円	削減
開館時期	令和10年度	令和10年代中頃～後半
デジタル 技術の活用	利便性向上ほか (ICタグなど)	積極的に導入 (電子書籍など)
市町立図書館 との役割分担	指導・助言、 職員研修ほか	機能が重複しないよう見直し 図書館ネットワークを強化
収藏能力	200万冊	150万冊程度を上限
蔵書の 保管方法	一体保管	書庫の分散化を含め 最適な手法を選択
新たな交流と 価値の創出	セミナールーム カフェ、ラボほか	東静岡地区全体の機能を 最適化する観点から見直し

<参考>

県立中央図書館の概要

- 建築から56年が経過し、施設や設備の老朽化が著しく進行
- 蔵書数が増加し、収藏能力がひっ迫

区分	内容	備考
所在地	静岡市駿河区谷田	
建設年	昭和44年3月	R C造
延床面積	8,816m ²	地上3階 地下1階
主な施設	閲覧室、書庫、子ども図書研究室、事務室、電算室、講堂ほか	
蔵書冊数	97.5万冊 (開架11.5万+閉架86万冊)	R7.3.31現在



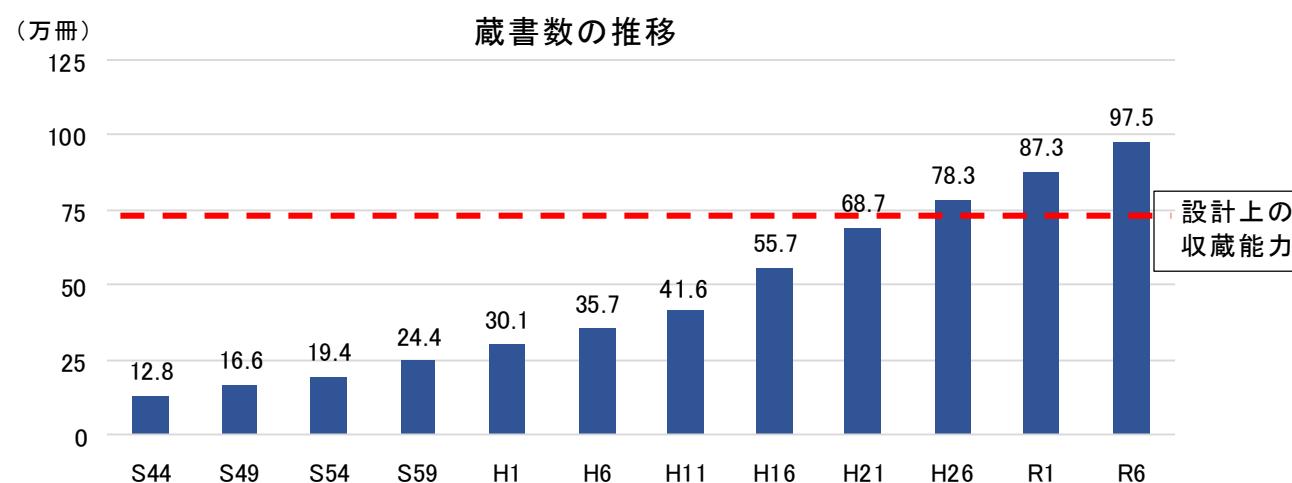
(県立中央図書館・全景)



(蔵書の荷重等でひび割れた天井・梁)



(旧埋蔵文化財センターに一時保管している蔵書)



東静岡地区の状況

- 「東静岡地区まちづくり基本構想（静岡市）」が目指す将来像は、「文化・スポーツによる感動体験」と「快適で安心できる暮らし」が両立したまち
- 主要プロジェクトの一つに、新県立中央図書館の整備を位置付け
- 東静岡駅北側に、静岡市が「新アリーナ」を建設予定（令和12年春）



<東静岡駅南口県有地>

